



「ZOOM」で学ぶ！授業づくりと人材育成

今年度、授業改革推進チームと北陽中学校をZOOMでつなぎ秋田県の取組を学ぶ希望研修を行いました。今号では、全5回の研修の様子をダイジェストで紹介します。

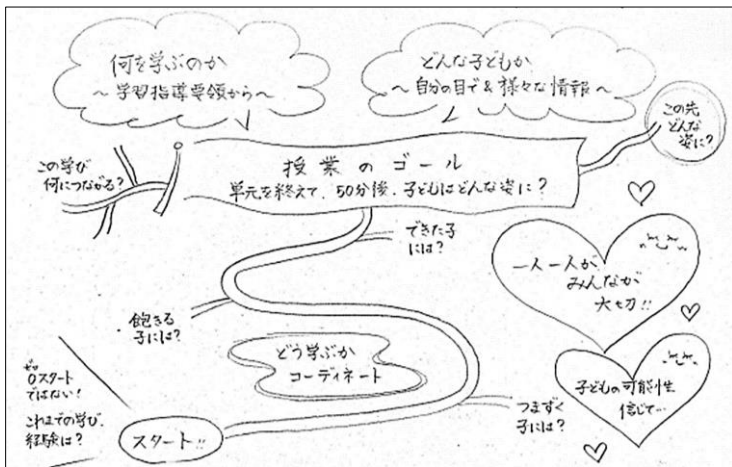


授業づくりのイメージ

右の図は、北陽中の阿部教諭が先輩教員に授業づくりについて指導された内容をまとめたものです。

- ① **学習指導要領解説**と、生徒の**実態**から目標を設定する。
- ② **0(ゼロ)スタートではなく**、これまでの学び(小学校段階も含む)や経験を踏まえる。
- ③ 授業後、単元後、卒業後など多様な**ゴールの姿**を想像して授業づくりを行う。
- ④ 生徒の学習状況を見取り、支援のタイミングや発問の内容などを、柔軟に変化させる。
⇒ **「一人も見捨てない」手立て**を考える。

阿部教諭(研究主任)作成の「授業づくりのイメージ」



北陽中では、どの授業でも、生徒の表情の変化やつぶやきを見逃さない先生方の姿が見られます。どの生徒を、どの場面で生かすかを考慮した授業づくりがなされています。
秋原 指導教諭



授業づくりに関するQ&A

岡山県の参加者が北陽中の先生方に質問しました。

Q1 深い学びを実現するために、どのようなことを意識していますか?

A1 **「付きたい力」を明確にすること。**そして、各教科の「見方・考え方」を生徒と共有することです。振り返りの場面では、日常生活や社会生活と関連付けることも意識しています。

Q2 全教員が授業づくりに参加するために、どのような取組をしていますか?

A2 時間があるときは、互いの授業を見合う取組を行っています。日常的に教科の枠を超えて教員間で対話をしています。**全教員が市や学校に貢献しようという意識**を持って働いています。

Q3 その他、授業づくりで意識していることはなんですか?

A3 生徒の発言を決して無駄にしない。生徒の疑問から授業をスタートできるようにする。素朴な疑問や誤答から学ぶことを意識している。**生徒を変えることが授業を変えることにつながる**と考えています。

若手教員が先輩教員から学んだこと

担任として、生徒の言動から家庭等での様子を見取することを大切にしています。

授業では生徒の実態に応じて、取り上げる既習事項を変えています。**生徒が自分で学んでいく姿勢を身に付けさせる授業**を目指しています。



笹森教諭(外国語科・採用5年目)

生徒指導においては、未然防止を意識し、教育相談や雑談、生活ノート等を手掛かりに、生徒の様子を見取っています。

授業では、教える時間、考える時間にメリハリをつけ、**活動時間を確保する**ようにしています。



伴野教諭(保健体育科・採用2年目)

先輩教員からは、生徒との関わり方のスピード感を学んでいます。

授業では、生徒に疑問を持たせるよう工夫するとともに、**疑問を予想し、次に生かす展開**を考えています。その際、疑問に寄り添いすぎて、授業のねらいから外れないように意識しています。

初任者研修では、学び続けることの大切さを学びました。**自分の考えに固まらないように**意識しています。



大沢教諭(理科・採用2年目)

ベテラン教員が授業づくりで大切にしていること

経験（実践）と理論（学習指導要領解説）に生徒の実態を加味し、指導計画を立案しています。

生活に運動を取り入れるようになってほしいという願いをもって授業をしています。

長岐教諭（保健体育科）



総合教育センターが作成した「授業改善のポイント」を参考にして、授業づくりを行っています。特に、学習のねらいから学習活動を考えることと、生徒の思いを大切にすることを心掛けています。

佐々木教諭（美術科）



聞き取ったことと感じ取ったことを結び付けて鑑賞するようにしています。更に、生徒が工夫して表現することと思考を広げることを大切にしています。

田中教諭（音楽科）



「自主性なくして主体性なし」と考えています。学校が目指す生徒像をイメージしながら、数学の授業を行っています。

佐藤教諭（数学科・教務主任）

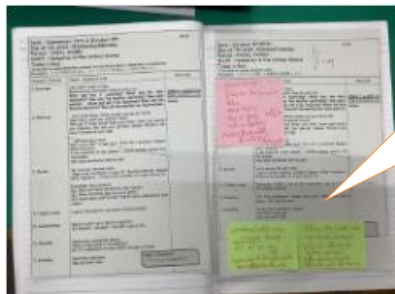
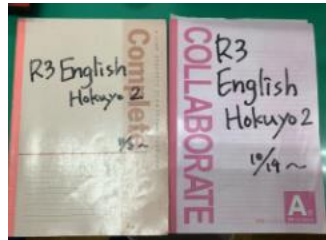


「板書は授業の命」として、流れが分かる板書に重点を置いています。板書の記録画像と学習プランメモ（⇒写真）を蓄積し、次の授業づくりに役立てています。

菊地教諭（外国語科）



菊地教諭の「板書の記録画像・学習プランメモ」



略案を作成し、効果的だった支援・声掛けやクラスごとに微調整した内容を上書きしています。

写真左上:板書の記録画像
写真右上:学習プランノート
写真左:学習プランメモ

北陽中の人材育成

岡山県の参加者が北陽中の管理職や教務主任に質問しました。

Q1 教職員の人材育成に関して、大切にしていることは何ですか？

A1 教職員が共に学び合える学校風土をつくっています。例えば、学年部編成では、教員が互いに成長する組み合わせを考えたり、教科の枠を超えた相互授業参観（学美ツアー）を実施したりしています。

生徒も教職員も「人材」ではなく「人材」と考えています。一人も置き去りにしないための組織づくりを行っています。



伊多波 校長

Q2 授業づくりについて、どのように助言していますか？

A2 ベテランの先生の授業と一緒に参観した後に、「どうだったか？」と問い掛け、意見を引き出すようにしています。北陽中では、教科の学びを通して人間性を高めることを大切にしています。いつも先生方には、「生徒を鍛えるためには、教師が努力し続けたいといけないよ。」と助言しています。

Q3 どのように授業づくりを行っていましたか？また、どのように自己研鑽されましたか？

A3 学習指導要領の内容と生徒の実態を照らし合わせて、どう指導するかを考えてきました。また、生徒との信頼関係を大切にしてきました。研究主任だったときには、全教科の学習指導要領解説を読み、自己研鑽をしました。現在でも、自らが学び続けることで、先生方にも適切な助言ができると思ひ、文部科学省や国立教育政策研究所の資料等から学んでいます。



加藤 教頭

Q4 授業を見に来た若手の先生には、どのように助言していますか？

A4 授業参観に来た時には、生徒の学ぶ姿、板書、ノートを見るように伝えています。授業後に、「なぜ、あの発問をしたのか。」「なぜ、あの生徒に指名したのか。」などの意図を伝えています。若手の先生は、話は上手ですが指示等が多いと思います。生徒に考えさせる場をつくろうと声掛けをしています。



佐藤 教諭

北陽中の職員室では、若手の先生とベテランの先生が学習指導や生徒指導について、よく会話をされています。特に、若手の先生から「ちょっといいですか？」と質問する姿がよく見られます。また、学年通信や学級通信、部活動通信の内容について、管理職が丁寧に助言されています。日常的に、教育観・指導観・児童生徒観などが、ベテランの先生から若手の先生に引き継がれています。



萩原 指導教諭